

事業名 ワクチン接種の予約サポート会

事業概要

- 自治会の役員を中心に、5台のタブレットを使って新型コロナ予防ワクチン接種のオンライン予約の講習会を開催。
- 講習会を踏まえ、ワクチン接種の予約サポート会を実施。

実施期間 令和4年2月5日～3月3日
参加人数 45名
事業総額 16万5,000円
(地域の底力発展事業助成金 16万5,000円)

主な経費(助成対象)
●物品購入費
オンラインタブレット 5台

役割分担

《企画・運営(6名)》
スケジュール管理、チラシ制作、会場での対応など
《事業周知(8名)》
チラシ配布
《ボランティア(2名)》
市内大学生が相談業務を支援

実施までの主な流れ

令和4年
2月5日 初回打ち合わせ。スケジュールを確認。
2月7日 周知物の打ち合わせ
2月12日 役員打ち合わせ。事前周知、当日のスケジュール、役割分担を確認。
2月14日 事前周知のためのチラシ配布を開始
2月23日 タブレットの使い方、予約の取り方の講習会を開催
2月27日 直前打ち合わせ
3月1日 ワクチン接種予約サポート会
3月3日 反省会



ワクチン接種相談会の会場となった住民の交流拠点「団地の縁側」。自治会役員が常駐。高齢者が気軽に立ち寄り、思い思いの時間を過ごす。



自治会で運行している「団地タクシー(電動アシスト三輪車)」。高齢者等の移動を支援。

事業の実施内容

● ワクチン接種予約をタブレットを使いサポート

実施場所 「団地の縁側」

開催日 令和4年3月1日

館ヶ丘団地は、高尾山の麓に昭和50年（1975年）に誕生した巨大団地。令和4年3月には住民約2,800人のうち70歳以上が5割を超え、高齢化率は58.7%となった。

第1回の接種は予約申し込みの電話が繋がらず、館ヶ丘団地ではインターネットで申し込みのできない高齢者が多数発生。自治会役員や市内大学生が延べ400人以上に予約支援を行った経緯がある。

その後、接種日時や接種会場は市が通知する仕組みになったが、指定の日に行けず予約を変更する場合などに戸惑う高齢者が今も少なくない。

そこで、今回の事業では、スマートフォンよりも大きな文字で使えて高齢者にも操作しやすいタブレットを5台導入。まず、自治会役員が使い方を学び、市内大学の協力も得て、団地住民の交流拠点となっている「団地の縁側」を会場に、朝10時から12時までの2時間、「ワクチン接種の予約サポート会」を開催した。

大学との交流は、拓殖大学国際学部の藍澤研究室が

令和元年に団地住民を対象として実施した社会調査への協力がきっかけだった。現在は、法政大学からもボランティアの学生がスマートフォンの使い方相談などを目的に定期的に訪れている。



「団地の縁側」で実施されたワクチン接種の予約サポート会

事業による成果・効果

大きな文字で使えるタブレットでオンライン活用へ一歩前進

今回、自治会では画面が大きく、スマートフォンよりも文字を大きくして読めるタブレットを導入するとともに、役員に使い方をレクチャー。これまでの予約サポートでは、自治会役員9人のうち1人が支援を一手に引き受け、市内大学生がサポートしていたが、ワクチン接種サポート会をきっかけに自治会役員のオンライン活用への第一歩を踏み出すことができた。

事業を振り返って

デジタル時代に高齢者が取り残されないように

「急激に進む社会のデジタル化に対して、高齢者がその環境変化に合わせていくしかない状況です」と館ヶ丘自治会事務局長の塚田賢一さん。団地では80歳代以上の高齢者が新たに入居する例が増加し、高齢化がさらに進む。「行政や市内の大学などのつながりも深めながら、今後も自治会として対応していく」と塚田さん。タブレットの活用が今後の活動へ刺激となっている。



「団地の縁側」で高齢者を支援する自治会長の高瀬智規さん（左）と事務局長の塚田賢一さん。